

まちづくり活動助成「地域“魅力”アップ部門・~~“はじめての”~~部門」
まちづくり活動提案書

1 助成を受けようとするまちづくり活動の提案について

提案名	地域住民主体で行う“まち興し”と“青少年教育”		
団体名	別小江みこし会		
提案の活動を行う地域	北区城北学区		
提案の内容	<p>城北学区には、学区全体で参加する行事は何もない地域でした。地域の子供たちが大人になったとき、「自分の住んでいたまちに愛着を持ち続け、自慢できるふるさとを創ってあげたい」、そんな思いを抱いた有志が「別小江みこし会（以下、「みこし会」という。）を結成し、自治会や地域住民などを巻き込み、学区内にある別小江神社を活用し、次の行事を行います。</p> <p>1 夏祭り (1) 模擬店（飲食物販売、有料ゲーム） (2) 地域の子供たちによる和太鼓・踊り</p> <p>2 秋祭り (1) 地域内の職人総出で作り上げたみこしの練り歩き (2) 模擬店（飲食物販売、有料ゲーム） (3) 地域の子供たちによる和太鼓・踊り (4) カラオケ大会（無料・景品付き）</p> <p>3 年末餅つき大会 学区内の人たちを対象とした、大規模な餅つき大会によるコミュニケーション</p> <p>行事的には自治会で行う何処にもあるようなものですが、有志から始まった「みこし会」の主導により、学区全体の行事として地域力を高め、祭りという一過性の祭り事にとすることなく、「まちの子供たちは地域で育てる。」を目的に、子供たちへの和太鼓・踊りを教える場を定期的に行い、地域教育の場としております。また、行事は、みこしや子供山車など使用する道具は住民による手作りで揃え、これら準備にかかる時間は地域住民のコミュニケーションの場として成り立っており、老若男女、多くの方が参加して楽しめる、そんなまちの活性化につながる精神を大切に活動したいと考えています。</p>		
活動期間	平成25年4月～平成26年3月	助成金交付申請額	50万円

2 提案内容について

「1 提案の内容」について、以下の4つの視点で具体的に活動内容をご記入ください。

審査基準① 必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に根ざしたまちづくり活動内容か ・自分たちの住んでいる地域を住みよい環境にする活動か ・地域との連携や協力が得られる活動か
--------------	--

・活動メンバーのみの趣味活動や仲間づくりではなく多くの人に理解や共感が得られる活動か

(提案活動の必要性について上記観点から分かり易くご記入下さい。)

※過去の助成を受けた団体は、その活動助成の成果も踏まえて記入下さい。

○ふるさと創りのために始まった祭りは、当初は子ども達が主体の秋祭りのみでしたが、自治会などとの連携により活動の種類も増えていき、現在は、大人が参加する夏祭り、秋祭り、餅つき大会となりました。また、その規模も徐々に大きくなり、秋祭りは子ども達の参加だけでも500人、大人も含めれば1,000人に近い参加を得ています。種類、規模両面からみても、住民同士が楽しめるコミュニケーションの場として、地域に根ざした恒例行事になったと考えます。

○活動の一環として、中学生以上の子どもを対象に和太鼓・踊り集団の「お囃子隊」を結成しました。定期的な指導の場を設けることにより、子ども達の地域教育の場として活動しています。また、小学生にも秋祭りに備える時期は毎週太鼓を教えています。主体は挨拶などの躰を地域の大人たちが行うことであり、このことは、少年犯罪を未然に防ぐ住みよいまちづくり環境に役立っていると考えます。また、「地域の教育力の低下」が指摘される世にあって、地域で子どもたちを育て上げる良い例として、愛知教育大学の野田敦敬教授の目に留まり、生活科の授業で紹介されるまでになりました。

○活動のメインである秋祭りは、自治会行事である子ども山車の巡行も行われますが、山車の組み立てなど力仕事はみこし会が行い、巡行の引率など人手不足な面は、みこし会と自治会が協力して行っています。

○活動は、老人や小さな子どもも楽しめるよう、カラオケ大会やゲームコーナー、食べ物の屋台運営を行います。音響リース機材を除き舞台の看板やゲーム自体、全て地域住民の協力で手作りしてもらっています。

審査基準②
独創性

- ・創意工夫にあふれた活動か
- ・地域性を活かした個性豊かな活動か
- ・新しい視点やアイデアがあるか

(提案活動の独創性について上記観点から分かりやすくご記入下さい。)

○祭りで使用するみこしや屋台設備など全てを住民参加で創作し、愛着が持てる地域のシンボル、財産としました。また、子ども達が関わるものは、地域教育の場として位置づけるとともに、子ども目線で新たに楽曲と踊りを創作しました。

○緑豊かな別小江神社を活用することにより、地域愛を育むふるさとの象徴としました。また、地域に町工場、職人が多く在住することから、学区内の愛知県立名古屋高等技術専門校の協力を得て、みこしなどを業者に発注することなく創作できました。

○祭りの定番であるプロの的屋を排除しました。また、男女がともに楽しめる祭りとするため、他の地域ではみられない、女性のみでみこしを担ぐ女みこしを作りました。その他、「お囃子隊」は、祭りでの演奏に限らず、餅つき大会や成人式の余興、地域の人の婚礼での余興など活動を拡大し、地域に根ざした独立した集団として、まちづくり活動に寄与するようにしました。

審査基準③
実現性

- ・提案内容が具体的になっているか
- ・事業予算は妥当か

時期	活動内容
平成25年4月	「お囃子隊」和太鼓・踊り練習の開始(週一回)、
5月	夏祭りに向けた各種調整、会議を開始(週一回)
6月	夏祭りの屋台設営等開始、チラシ準備開始
7月	夏祭り(神社内模擬店、お囃子隊演奏等) 秋祭りに向けた各種調整、会議を開始(週一回)
8月	参加者調整、チラシ準備開始、屋台設営、祭り必要道具の作成開始
9月	秋祭りに向けた小学生の和太鼓練習開始(週一回)
10月	秋祭り(みこし練り歩き、神社内模擬店、お囃子隊演奏等 2日)
11月	餅つき大会に向けた各種調整、会議を開始。印刷物作成
12月	餅つき大会
平成25年1月	成人式余興参加(お囃子隊和太鼓演奏)
3月	みこし会総会

助成を受けようとする活動項目ごとの支出内訳書(ページが不足する場合は別紙にご記入下さい。)

活動項目	内訳		金額(円)
1 夏祭り 2 秋祭り 3 各イベント 4 共通経費	別紙のとおり		1,089,400
計	都市センター助成金500,000円 自己資金699,400円(寄付金を充当)		1,199,400

審査基準④ 発展性
 ・今後の活動の発展にむけての視点や計画があるか
 ・助成後に地域まちづくり活動への波及効果があるか

(提案活動の発展性について上記観点から分かりやすくご記入下さい。)

○お囃子隊の結成は、活動スタッフを若い子ども達に引き継ぐための一つの方策と考えております。また、創作太鼓(演目)を、地域に限らず全国に広まることを夢に持ち、地域教育の場としての対象者を拡大する観点から、まずは北区に移住する子ども達も参加ができる計画を考えております。

○必然的なコミュニケーションの場が、住民同士の相互理解を深める場になっており、災害時などでの共助が円滑に行われます。また、近年は、区長や学校長までも見学に来ていただけるようになり、今後の行政と市民とのパートナーシップについても円滑に進むと考えられます。

審査基準⑤ 活動実績と主体性
 ・提案内容につながる地域での活動実績を有しているか
 (団体の概要、活動紹介、これまでの活動成果等をご記入ください。)
 ・具体的にどんな熱意を注いでいるか

※「はじめの一歩部門」は審査の対象とはしません。

※参考資料として活動に関するチラシやリーフレットなどを添付することができます。
 この場合、公正を期するため、A4判3枚(両面)までを限度とさせていただきます。

団体の概要、活動紹介、これまでの活動成果等を上記観点からご記入下さい。

○活動自体は、昭和57年頃、地元の有志により開始されました。その後、継続的な運営を図るため、「みこし会」が平成11年に結成され、現在は、城北学区の全ての町内からスタッフが出ており、現在71名がまちの活性化、まちづくりのために活動している任意団体です。

昨年度は、中・高校生以上を対象にした「お囃子隊」が、和太鼓・創作踊り練習を定期的に行いました。この創作踊りと歌謡は、地元独自のもので、10年以上にわたり地元の人に愛されています。夏には、別小江神社内において、みこし会と協力していただける地域住民により飲食販売、ゲームコーナー、そして若者による和太鼓・踊りを披露する夏祭りを行い、秋には夏祭りの催し物に加え、参加無料のカラオケ大会、地域の協力により作り上げた男みこし、女みこし及び各町内会の子ども山車の曳きまわし(自治会事業の共催)を行いました。この子どもは、子ども達が山車に乗り和太鼓を演奏しながら学区を引き回しますが、楽曲は別小江みこし会の創作で、1ヶ月前から子ども達へ教えています。年末には、餅つき大会を学区住民の参加を得て開催し、餅つきに興じながら食するとともに、学区の皆が集まるコミュニケーションの場として盛り上がっています。平成25年からは、城北学区成人式において子ども達の和太鼓演奏を行い、式典の盛り上げに協力できました。今後とも、祭りや餅つき大会というありふれた行事の枠にとらわれない、新たな視点や内容の充実を続け、ふるさと創りを行っていきます。昔から地域に存在していなかった歴史のない夏・秋祭りですが、的屋の出店のない、住民自らが作りあげた盛大な祭りはまちづくりの好例として、中部日本放送及びケーブルテレビにおいて放送されました。

※第2号様式は、3ページ以内でご記入ください。用紙の大きさは、日本工業規格A4とします。

【別紙】

助成を受けようとする活動項目ごとの支出内訳書

活動項目	内 訳		金額(円)
1 夏祭り	お囃子隊法被	8,800 円/枚×30 枚	264,000
2 秋祭り	股引き	5,800 円/枚×30 枚	174,000
3 各イベント (成人式、敬老会)	鯉口シャツ	7,500 円/枚×30 枚	220,000
	足袋	2,400 円/足×30 足	72,000
	鉢巻	1,000 円/本×30 本	30,000
	扇子	4,000 円/本×30 本	120,000
	篠笛	2,800 円/本×30 本	84,000
	太鼓ばち (大)	2,500 円/組×30 組	75,000
	太鼓ばち (小)	1,500 円/組×30 組	45,000
	衣装ケース	1,800 円/ケース×3 ケース	5,400
	4 共通経費	消耗品	コピ-代、文具
講師謝礼		30,000 円/年×3 名	90,000
計	都市センター助成金 500,000 円 自己資金 699,400 円 (寄付金を充当)		1,199,400